
ひとつぶの涙

さすらいのかえる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひとつぶの涙

【コード】

N9337A

【作者名】

さすらいのかえる

【あらすじ】

泣けない僕のお話。僕が何も考えずに、ぼくと歩いていると歌声が聞こえてきた・・・

何も考えずに僕は歩いていった。そうしていると、どこからか歌声が聞こえてきた。

引き込まれるように、そこに向かって歩くと、歌声が聞こえた場所には、一人の女の子が、座ってギターを弾いて歌っていた。僕は向かい側に腰を下ろし、彼女の歌を聴く事にする。

「リクエストはありますか？」

僕に気付いたのか話しかけてきた。

「じゃあ僕を泣かして下さい」

無茶な事を言ってみる。

答えの代わりに彼女が歌いだす。少し悲しい歌詞とメロディー、彼女の声は透き通るように辺りに響いた。でも、僕は泣けない。僕は歌が終わると立ち上がったって歩き出そうとした。

「ちょっとまだリクエストに応えてない」

そう彼女が言うのと立ち上がって、歩き出そうとしていた僕を強引に掴んで自分の隣に座らせた。

「僕は泣けない人だから気にしないでいいから」

どうでもいいように僕が言うと。

「いいから座ってて」

優しく、それで有無を言わせない感じで彼女が言う・・・少し怖い。

彼女の言うことを聞くようで癪だが、特に予定もないし座っている事にする。

僕は何も喋る事も無く、ただ歌声を聴いていた。

どれくらい時間が経ったろうか、彼女の歌を聴こうとして一人の女の人が向かい側に座った。

彼女が歌う。少し聴くと僕は気付いた。始めに聴いた少し悲しい歌詞とメロディー、彼女の澄んだ声が辺りに響く。

向かい側の女の人の瞳から涙がこぼれ落ちた。

僕の瞳から涙がひとつづつ流れる。

横を見ると彼女が微笑んで僕を見ていた。

おわり。

(後書き)

ブログに載せてある短編をリメイクしてみました。良かったら感想ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9337a/>

ひとつぶの涙

2010年10月12日03時44分発行